

伝承あすか

第十五号

追憶・明日香村 伝承芸能保存会

脇本眞智子

それは平成二十三年四月のこと。保存会初代会長勝川喜昭様が次期会長として私に後事を託すと告げられました。一会員に過ぎない私にとっては全く晴天の霹靂、目の前が眩む思いがいたしました。爾来二期四年間、勝川様自身でなさるより不安と心配が多かったことと思いますが、本当に幸いなことには、「八雲琴」「飛鳥蹴鞠」「万葉朗誦」「南無天(なもて)踊り」の各部とも立派な指導者がおられましたお陰で、私のような頼りない存在にも関わらずそれぞれ所期の活動を有意義に継続していただいたことです。勿論、これには国のまほろばといわれ、近い将来に世界

遺産にもなるうという明日香村に存在する世界でも希有な古代文化の賜物ではありますが、それを認識された故垣内正義様はじめ村内の先覚者が創始された文化高揚運動の精神が今も会員一人一人に脈々と伝わっているからに相違ありません。こうした村内の活動を村当局が後押しされ、必要な予算を組んで下さり更に教育委員会の諸先生のご指導によることは言うまでもありません。また、古都飛鳥保存財団からの資金バックアップは活動の不可欠要因となっています。更に、飛鳥寺等村内の著名寺社や南都銀行明日香支店等村内有力企業からと、有志の個人皆様からいただく毎年のご寄贈に厚く御礼を申し上げます。こうした各方面からのお力添えによりまして、明日香村観光客への定期公演を始め高取国際高校など村外でも活動を続けていますが、敢えて申し

ますと、村民数減少から村内の会員増強ははかどらず、むしろ橿原市や桜井市など村外のフアンに食指をのばす現況の中で一条の光と申しますか、明日香村の学校当局のご協力で、八雲琴への関心が高まりまして生徒さんの熱心な練習の上過日の文化祭に多数出演されまして観衆の耳目をひきました。

また南無天踊りの方では、小学校からご希望をいただきまして私どもの踊りを先生がアレンジした可愛い踊りを運動会で披露されました。その父母から喝采されました。その上「本物の南無天踊りをやりたいので見学をしたい」とリクエストのジュニアもいます。がんばれ！ナモデ・チルドレン

その他、今秋の古代あすか収穫祭が賑々しく行われた飛鳥野では保存会四部門とも参加させていただく予定でしたが、雨乞い踊りの熱気が天に通じたのか降雨予報のために中止となりました。ところで、この春の保存会総会におきまして既に岡崎新会長に重荷をバ

トンタッチをしていましたので、身も心も軽く南無天踊りを楽しみたい私は髀肉の嘆をかこちました。

余談になりますが今年、阿波踊りをパリで公演されましたら、これが大受けしましてパリジャンが飛び入りで踊りの輪



「南無天踊り」平成27年9月23日 奈良県大芸術祭「伝統芸能の夕べ」(近鉄奈良駅前)

に加わったと新聞に出ていました。踊りの魅力には国境がないようです。しかし、踊らなソンの華やかさの裏にもいろいろな苦労があるはずで。日本舞踊を趣味にしている人の話では、踊りをしばらくしないと足が上がらなくなると申します。私は南無天踊りのメンバーに日々もまれていたせいも、俳句仲間と遠出(吟行)しましても私の健脚ぶりはいささか自慢です。心なしか私の腰やももに歳に似合わぬ筋肉がついているようにさえ思っています。

保存会の責任者を仰せつかって以来、今日まで会の皆様と苦しかったこと楽しかった数々の思い出が走馬燈のように去来する昨今です。歳々年々人同じからず、明日香村伝承芸能保存会の組織に新陳代謝はあつてもそのスピリットは永遠に不変です。永久の弥栄と会員各位のご健勝を祈念しましてお世話になりました皆様に対する御礼とさせていただきます。誠にありがとうございます。

平成二十七年十一月一日

八雲琴

観月会

西川千佳子

九月二十六日(土)十四夜の夕べ、犬養万葉記念館で「万葉の明日香路に月を観る会」が開催されました。

森川村長、脇田名誉館長、岡本館長の挨拶で始まりました。城山副館長が司会の中で十五夜前後の月の呼び名のお話を交え、会は進行されました。

出演は八雲琴、飛鳥太鼓、万葉朗唱の三グループでした。リニユアルされたおしゃべりな万葉記念館は心地よいスペースで、響きもよく気持ちよく演奏できました。観客の方々も甘樫の丘ミニウォークの後でしたが、熱心に聞いて下さりました。このあと石舞台でお月見をされたそうです。今日は生憎の曇り空でしたが、月は観えましたでしょうか。

翌日二十七日(日)十五夜の夕べ、桜井市穴師かむなびの郷で観月会が開催されました。

この穴師は相撲発祥の地であり、二千年前最初の取り組みが行われた相撲神社があります。また日本のミカン栽培の発祥の地でもあり、一帯にミカン畑が広がっていました。麓には山辺の道が通り、その先には景行天皇陵が鎮座し、二上山、生駒山麓まで一望できるすばらしい眺めでした。

会場は畑の一角に設けられ、舞台や観客席は手作り感あふれていました。舞台は相撲神社にあやかっとなのか、土俵の形に土が盛り固められていました。お接待ではさなぶり餅、かむなび汁、麴のドリンクがふるまわれ、地元の人や多くのボランティアの人々に支えられた会場でした。

二上山に日が傾き西の空が茜色に染まる頃、観月会が始まりました。

私達八雲琴の他に、雅楽、二胡、笛、太鼓、舞踊とすごい方たちが演奏、出演されました。八雲琴の演奏が終わろうとする頃、三輪山の北の空に大きな月が現れました。



「ふと気づくと満月だった」という、日頃無粋な私でも、この日の月には見とれてしまいました。

澄み渡った空に中秋の名月。今年一番の月でした。

演奏は日が落ちるにつれ、楽譜がどんどん見えなくなるといふ、アクシデントがありました。緊張もしましたが、献奏させていたのだという、清々しい気持ちになれた夕べでした。

二つの趣の違った観月会でした。

八雲琴に魅せられて

奥田友理

八雲琴をはじめて見たとき、なんてかわいい楽器だろうと思いました。お琴の台には千鳥がくりぬかれていて、ツボにも所々に千鳥がはめ込まれています。大きさも小さくて、絃が二本。どんな音が鳴るのかと思ったら、なんと素朴な音色。お琴を見た瞬間、弾いてみたい！と興味を持ちました。爪と転管をつけてお琴の前に座ると気分も高まります。

先生から、曲だけでなく、八雲琴の歴史や楽器の成り立ちを教えていただくにつれ、その神聖さに身が引き締まります。お琴は龍に見立てて、つくられており、大きな玉が付いている方が龍の頭で、玉をくわえる形になっています。また、白と青の糸は男女、天地をあらわしています。そして、演奏する前には必ず三礼をします。

「イザナギ、イザナミ、スサノオ、オオクニヌシ、スセリ…」と、神々の名前をゆっくり、はっきりと唱えます。演奏がはじま



平成27年9月21日 奈良県大芸術祭「伝統芸能の夕べ」(近鉄奈良駅前)

ると、空気がピリッとしみます。ツボを間違えないように集中しなければいけません。顔がこわばりますが、優雅に、そして、にこやかに。直前まで調絃をしても、絃はすぐに変わってしまうので、最初の音を出すときはひやひやします。ここでばっちり全員の音がそろっている

と、とても気持ちよく演奏できます。私は替手を弾かせていたのですが、人が多いのですが、人数が少ないので緊張します。一緒に替手を弾く中学生や先生方に助けられています。

八雲琴を演奏する機会がたくさんあることに感謝しています。遠方

から聴きに來られる方も多く、自分はずくづく恵まれた環境にあると実感しています。このような貴重な楽器を演奏させていただくのだから、自分もしっかりとしようと思合も入ります。

舞台では鮮やかなピンク色の衣装を身にまといませんが、これも非日常な感じで楽しいです。これからも、より素晴らしい演奏ができるように続けていきたいと思ひます。

明日香万葉朗唱講座

明日香村伝承芸能保存会主催

講師 岡本三千代先生

「万葉うたがたり」主宰

「犬養万葉記念館々長」

月一回開催・年間十一回

八月は休講

場所 明日香村中央公民館

二階研修室①

日時 毎月・第四木曜日

午後一時～二時三十分

会費 当日会費五百円

(年会費・三千円)

◇当日の万葉歌を犬養節で朗唱
◇年一回、県外研修旅行実施

たまゆら

古稀過ぎて

伝承引き継ぎ 気持ち新たに

明日香村伝承芸能保存会々々長

岡崎義男

私は二年前に「古稀」を迎えました。

本来「古稀」とは、皆さんもご承知の通り、中国・唐の時代の詩人、杜甫の「曲江(きょくこう)」の詩「酒債は尋常行く処に有り、人生七十古来稀なり」から由来しています。その当時、中国では四十歳を過ぎますと、十年毎にお祝いをしてきたとことで、当時の平均寿命が四十歳より若かったのではなかったでしょうか。現在の日本人の平均寿命は、男八十一歳、女八十七歳の長寿社会を迎えています。何も無ければ平均余命十余年あります。五月の「総会」で大役を仰せつかったとき、「気持ち新たに」頑張ってみようと思いました。

ところで、私が伝承芸能に入会させて頂いたのは、初代会長、勝川喜昭様がお越しになり、お誘いを受けました。私は、一も二もな

く「よろしくお願ひします」と即答しました。これより一年前、私は某市の青少年センターに勤めていました。警察署より「青少年補導員」の補充の依頼があり、検討の結果、A氏宅へお願いに上がりました。A氏は「私に務まるのか」と固辞されましたが、居間で聴いておられたお父様が、やおら座敷に来られ息子に、

「声をかけてもらうときが華やで」と、ひとこと言われました。結果上々、喜んで帰ったのは言うまでもありません。

「声をかけてもらうときが華」はそれ以来私の人生訓の一つになっています。

私は「南無天踊り」に所属し、囃子方の横笛を希望しました。二ヶ月経つても音が鳴りませんでした。「奈良県人権フェスティバル」が高田市「さざんかホール」で開催されることになり「南無天踊り」がゲストで出演することになりました。笛の特訓に特訓を重ね何とか合格に漕ぎ着け出場の機会を得ました。これではいけないと思い一念発起して、篠笛奏者：井上真実先生の教室に月一回通っています。ここでは若い人や経験者が多く大変刺激になります。行くのに苦労しています。

大きな話になりますが、現在、日本社会は情報化の影響を受け、産業・経済・文化がグローバル化しています。ここでは個人の価値観や働き方や文化・芸術が多様化し若者は自分というものを見失いがちです。しかしその中においても自分の立ち位置・よりどころ・自信と誇り・しっかりとした信念等を持って、すなわち日本人としてのアイデンティティを確立して力強く生きていくって欲しいと思います。そのためには、郷土の伝統・文化・芸能が自分の立ち位置やよりどころとして、目には見えなけれども心の中に大きな役割を果たすと思います。よって、記紀万葉に起源を持ち歴史と伝統のある、飛鳥蹴鞠・萬葉朗唱・八雲琴・南無天踊りを、近隣の小・中・高生に鑑賞と体験活動を通して、継承の深化充実に努めたいと思っています。

今から一三〇〇年前、古事記完成し万葉集が編纂されました。奈良県はこれを記念して、平成二十四年〜平成三十二年の九年間を「記紀・万葉プロジェクト」と銘打って、多種多彩なイベントを推進しています。今後も引き続き協力していかねばと思っています。また、平成二十七年四月二十四

日、広域飛鳥地域が「日本遺産」の認定を受けました。

その内容は日本創成のとき・創成の地(飛鳥を翔た女性たち)・国家として歩み始めた飛鳥時代を牽引したのは女性でした。

都の造営・外交・律令の整備、女帝が半数を占めています。政治・文化・宗教では女流歌人額田王始め、善信尼等尼僧の活躍、女性力が最も力強く活躍した場所であり時代でした。明日香村伝承芸能も構成文化財群に入っています。私たちが会員は内容を理解し率先垂範して取り組み、地域発展の一助になることを願っています。

結びに、能楽の大成者世阿弥は言っています。演者は「離見の見」が大切だと、常に観客の目で自分を見なさい、我を忘れる事無く客観的に見なさいと。互いに切磋琢磨し演者の精度を高め鑑賞者に感動を与える伝承芸能になっていくことを願っています。

「伝承あすか」第十五号

発行 平成二十七年十二月
明日香村伝承芸能保存会

会長 岡崎義男

題字 「伝承あすか」勝川喜昭書
編集 明日香村伝承芸能保存会